

砂防ソイルセメント継続工事始まる！

敷原(しきはら)谷では、砂防ソイルセメントの継続工事に着手した(写真①)。この日は、メーカーの担当者を現場にお招きし、施工上の留意点等のレクチャーを受けた。

本年度の工事は、左岸側の本堰堤及び側壁等を施工する工事。鋼製の部材、材料となる現地発生土砂の含水比(がんすいひ:土砂内の水分割合)等、使用する材料の特性に配慮し、本日も工事が進む。

敷原谷では、施工予定の堰堤形状を視覚的にとらえるため、堰堤を3D化し完成イメージを視覚的に捉えながら工事を実施中(写真②、図③)。



越美山系の安全度向上のため・・・

大谷(おおたに)川では、気泡混合盛土もその存在感を一段と大きく(写真④)し、年末の工事完成に向け、作業が進む。この日も気泡混合盛土の打設中(写真⑤)。この気泡混合盛土の施工もあと数回だ。

本工事現場の下請業者の皆様は、九州より本現場に来場し約半年間の施工を担当。本格的な冬支度が進む当該現場では、通勤車両のスタッドレスタイヤの準備が進む。あまり雪の降らない九州から来た作業者は「初めてスタッドレスタイヤを履く。」とか。

越美山系の安全度向上のためには、時に日本各地の技術者の力が必要となる。



大洋基礎工業㈱(一次)の伊東さん。あと少しで九州に帰れることが「楽しみ」とのことでした。

～工事の影響を考慮し作業が進む～

日洞(ひぼら)谷では、堰堤のコンクリートが進んでいる(写真A)。堰堤工事などに用いられるコンクリートは基本的にアルカリ性。このため、排出する水の処理を行うよう中和処理装置を持ち込み(写真B)、排水する水を中性化する。河川工事の実施に当たっては、水環境への影響に配慮が必要だ。



高地(たかち)谷では、林道崩落箇所を迂回するため、切り直し道路を造成中(写真C)。埋設された水道管に十分な配慮を行い、本日も工事が進む。



補強土壁の工事(写真D)が始まった瀬戸(せと)谷では、現場入口に工事説明看板が設置されている(写真E)。

実はこの看板、間伐材の有効活用を促進するため、間伐材が用いられている(写真F)。

工事を進める上では、様々な配慮がなされている。



工事では裏側も重要

どんな工事においても、土砂などを置くバックヤードが必要である。特に、急峻な地形の中で行う砂防工事現場では、現場外にバックヤードを設けることしばしば。移動にはダンプの運搬が必要不可欠。どうぞ皆様、ご理解をお願いします。



H 当出張所の工事車両は、記号+番号でどの工事の車両かわかるようになっています。